

## 「土砂災害を学んで」

宮崎県 小林市立須木中学校 3年 <sup>しいば</sup> 椎葉 <sup>ゆうみ</sup> 優美

私は、学校であった防災教室で土砂災害について学びました。防災教室では土砂くずれや地すべりが起こる映像を見たり、話を聞いたりしました。土砂災害は台風や大雨が降ったあと、いつ起こるか分かりません。いきなり山から岩や木が落ちてきたときにその場にいたら怖いし、家の外にいても家の中にいても危ないと思います。そして、土砂災害が起こったときに、自分の命を守るためにはどうすればいいかを考えておかないといけないと思いました。

私が住んでいる須木は、周りがほとんど山になっています。私の家の裏もすぐ山があるので、大雨が降ったら土砂災害が起こるかもしれないと思うと怖いです。私の家の裏には山と家の間に2メートルぐらいあるブロック塀がありました。でも、何年か前の大雨のときにくずれてしまいました。このことがあるまでは、土砂災害についてあまり考えていなかったけど、土砂災害の危険は身近にあると感じ、自分には関係ないことだと思っていはいけなかったと思います。

日本は4分の3が山なので、たくさんの地域で土砂災害の危険があります。だから、いろんな都道府県が土砂災害を防止するための取り組みをしていると思います。そこで、どんな取り組みをしているのかをインターネットで調べてみました。

まず、宮崎県ではどんな取り組みをしているのか調べました。宮崎県では、7年ぐらい前に台風の影響で大雨が降り、大規模な土砂災害が起きたそうです。私はその災害の様子を写真で見て、こんなに大きな災害があったことを初めて知りました。それから、その地域に防災対策をしているそうです。監視カメラや雨量計などの観測機器を整備したり、流木による被害を防ぐために流木止めを設置していることが分かりました。この対策で、災害が起きる前に注意や避難を呼びかけたり被害を少なくしたりできるので、その地域に住んでいる人も安心して暮らすことができますと思います。

他の県では、土砂災害の警戒区域を指定し、市町村が危険な場所や避難ができるような取り組みをしているそうです。私は災害防止の取り組みを調べてみて、災害を防ぐためにいろんな取り組みをしていることがわかりました。でも、危険な箇所なのに、地価が下がったり、過疎化が進んだりするのを心配した住民や市町村から反対されて警戒区域に指定できないところがあることを知りました。人手や予算が足りなくて災害防止の取り組みができないところもあるそうです。避難指示を出すための準備や被害を防ぐための対策が十分にできていないと、災害が起きたときに困ると思います。日本にはまだそのような課題があることが分かりました。私の住んでいる地域では防災マップが作られ、避難場所が指定されています。だから、もし災害が起きてもすぐに避難ができるようになっています。私たちがいつも安心して暮らすように対策をしてくださっている方々には感謝したいです。この対策のおかげで命が助かることがあるので、みんなが安心して暮らすことができるようにどの地域でも災害防止の取り組みができるといいなと思いました。

私は、これからいつ起こるか分からない災害に備えておかななくてはなりません。私が住んでいる地域の災害の防止対策や危険箇所、災害が起きる前の避難場所を知っておかないといけないと思います。すぐに避難できるように必要なものを準備しておくのも大切なことだと思います。

もし災害が起きたら、慌ててしまってどうすればいいか分からなくなるかもしれないけれど冷静に落ちついて行動できるようになりたいです。自分の命を守ることが一番大切だけど、家族や近所の人、地域に住んでいる高齢者の方々のためにも行動できるようになりたいです。

平成 25 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

台風や梅雨の時期になるといろんな地域で大雨で土砂くずれが起きたり、川が氾濫したりたくさんの被害が出ることもあります。そんなときは、不安な人や困っている人がたくさんいると思います。だから、お互いに助け合える信頼関係ができるように日ごろからあいさつなどをしっかりしたいです。

災害を決して人事と思わず、自分がすべきことを考えて自分の命を自分で守れるようにしたいです。